



KKR ジャパン、マネージング・ディレクターとして原田秀一氏を採用

【2020年4月1日】世界有数の資産運用会社であるKKRは、本日付で、プライベート・エクイティを担当するマネージング・ディレクターとして原田秀一が入社することを発表いたします。

原田氏は投資銀行業務で20年を超える経験と実績を有します。KKR入社前はメリルリンチ日本証券に16年間勤務、直近まで取締役 投資銀行共同部門長の職にありました。メリルリンチ日本証券では主にプライベート・エクイティおよびTMT業界を担当し、M&A、MBO およびレバレッジ・ファイナンスなどの提案・提供を担っていました。それ以前は、大和証券 SMBC の東京およびロンドンオフィスにてM&Aアドバイザリー業務を担当、その前は中央青山監査法人にてトランザクションサービス業務に従事していました。

KKR ジャパン代表取締役社長およびKKR アジア プライベート・エクイティ共同責任者である平野博文は次のようにコメントしています。「この度 KKR ジャパンチームに原田氏が加わり、日本のリーダーシップチームの層が厚くなることを非常に喜ばしく思います。KKR ジャパンでは追加的にプライベート・エクイティ業務の経験豊富な人材の採用も行っており、これは当社が日本に長期的にコミットしていること、そしてプライベート・エクイティ投資に引き続き注力していくことを示しています。」

原田氏は、「プライベート・エクイティ投資の先駆者であるKKRの一員になることを大変嬉しく思います。産業や社会構造の変革に伴い、日本においてもプライベート・エクイティの活動の機会が増加し、その社会的意義も高まっています。企業価値の向上と投資家に対するリターンへの創出というプライベート・エクイティに期待された役割を全うできるよう努めてまいります。」とコメントしています。

日本はKKRにとって重要な投資先市場であり、今回のシニア人事はKKR ジャパンにおける陣容およびビジネス業務の更なる拡充につながるものです。2006年に日本にオフィスを開設して以来、KKRは日本市場に22億ドル超を投資・コミットし、大企業の事業部門のカーブアウトやクロスボーダー案件を通じて 投資先企業のさらなる成長に向けて伴走しています。これまでに手掛けたプライベート・エクイティ投資としては、PHC ホールディングス(旧パナソニックヘルスケア)、AlphaTheta(旧パイオニア DJ)、マレリ(旧カルソニックカンセイ)、工機ホールディングス(旧日立工機)、KOKUSAI ELECTRIC(旧日立国際電気)、パーソルキャリア(旧インテリジェンス)などがあります。

以上

KKRについて

KKRはプライベート・エクイティ、エネルギー、インフラ、不動産、クレジット、ヘッジファンドなど複数のアセット・クラスを手掛ける世界有数の資産運用会社です。KKRでは、長期的かつ規律的な投資アプローチで、世界トップクラスの人材を投じ、ポートフォリオ企業の成長と価値創出を主導することで、ファンド投資家に対して魅力的な投資リターンを創出することを目指しています。KKRはファンド投資家からの資金に加えて自己勘定資金の投資も行うと共に、キャピタル・マーケット事業を通じて資金調達ソリューションや投資機会も提供しています。なお、KKRの投資に関する記述には、KKRがスポンサーとなっているファンドによる活動が含まれる場合があります。KKR & Co. Inc. (NYSE: KKR)に関する情報はウェブサイト www.kkr.com および [Twitter@KKR_Co](https://twitter.com/KKR_Co) をご参照ください。

メディアお問い合わせ先

フィンズベリー (服部 070-7484-7703、岡本 080-9898-5591、メール: FinsburyKKRJapan@finsbury.com)